

Title	アメリカ史總説(恒松安夫著, 三笠書房刊)
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1941
Jtitle	史学 Vol.20, No.2 (1941. 11) ,p.145(331)- 145(331)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19411100-0145">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19411100-0145</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## アメリカ史總説

(恒松安夫著  
三笠書房刊)

敵としても味方としても、我々が知らなければならぬ米國についての邦文史書は甚だ乏しい。ヘボン講座から生れた數冊の書物と木村重治氏譯ハワースの米國近世史(泰西名著歴史叢書)及び高木八尺氏の米國史序説が、これまで信頼し得る我等の知識の糧たるに過ぎなかつた。幸にして最近藤原守胤氏の尠大なるアメリカ建國史論上下二卷の刊行を見、多年の研究に基く該博なる知識の倉庫を得て學界に裨益するところが大であつたが、これは初學者の近づき得るものではなく、又米國史の一部を憲法史的に取扱つたものである。しかるに、近頃岩波新書の中に、フアランドのアメリカ發展史(上下二卷)が名原廣三郎、高木八尺兩氏の邦譯を見た上に、今回、我が恒松安夫君によつて、三笠書房の現代學藝叢書中の一巻として、アメリカ史總説の刊行を見たのである。

本書はアメリカの新大陸全般に互る探検と發見から筆を進めて、北米合衆國の歴史を世界大戰後の今日に至るまで、概説的に要領よく、平易に、記述したものであつて、米國史の全般を入門的に知るのには、極めて便利である。一般讀者、殊に學生諸君に國民の常識として本書の一讀を勧め得ることは、私の幸とするところである。定價一圓。(間崎万里)

書評

## 蒙古資源經濟論

(楊井克己著  
三笠書房刊)

本書は現代學藝叢書中の一冊で、現在蒙疆と呼ばれてゐる地域に關する經濟概説書である。從てその對象たる地域は北はゴビの沙漠、南は萬里の長城によつて劃された通常內蒙古と稱せられる地域から、滿洲國に屬する東部內蒙と、寧夏省以西の西部內蒙を除いた部分で、嘗ては察哈爾省・綏遠省・山西省北部(內長城線以北)を形成してゐた地域であるが、現在では蒙古聯合自治政府の支配下にあり、即ち張家口・厚和・包頭の三特別市と察南地區(十縣)・晉北地區(十二縣)・察哈爾盟(八縣八旗)・錫林郭盟(十旗)・巴彥塔拉盟(十一縣五旗)・烏爾察布盟(六旗)・伊克昭盟(四縣七旗)に屬する地域である。實はこれだけの事にすらなく、無關心の人が多く、大同は華北に屬すると思つてゐる邦人も少くないから、さういふ點からも本書は蒙疆に關する概念を得るに手頃な入門書としての價値を持つわけである。しかも境域・面積・人口に初まり、世界經濟に於ける蒙古の位置、蒙疆經濟の構造的特徴、農業、牧畜業、鑛業、工業、交通、商業、貿易、貨幣及び金融、財政、蒙疆經濟の新動向と章を追つてそれ／＼手際よく纏められてゐる。

陰山山脈によつて分たれた南部の黃土地帯は概ね漢人の農耕地帯であり、北部の砂礫草原地帯は蒙人の遊牧地帯であるが、蒙人は僅に全人口の五%に過ぎないこと。此地が事變前までは主として獸毛獸皮(殊に羊毛)の原料供給市場であり、カーペット用經